研究会レポート　防災研究会

(㈳日本技術士会北海道支部／北海道技術士センター)

第 10 回記念防災セミナー報告　── 国土学の視点から災害を考える ──

この 8 月 29 日(火)、第 10 回記念防災セミナーをホテルニューオータニ札幌・朝日ホールにて開催しましたので報告します。

2001 年からの第Ⅳ期防災研究会の活動の一環として始めた防災セミナーも、今回が記念すべき第 10 回目となりました。

講演には、建設省道路局長、国土交通省技監を歴任された、財団法人国土技術研究センター理事長の大石久和氏をお招きすることができ、大変盛況のうちに、セミナーを終えることができました。

参加者数は 132 名、セミナー終了後の情報交換会にも 48 名の参加がありました。

■これまでの防災セミナーを振り返って

開催に先立ち、10 回目を記念して、日本技術士会北海道支部の大島支部長からお祝いの挨拶をいただき、続いて、当会の高宮会長から、これまで開催してきたセミナーの概要（表－１）を紹介しました。

この間、「都市型防災」をテーマに設定し、様々な視点から産学官の 18 名に及ぶ講師の方々から、貴重な講演をいただくことができました。紙面を借りて、あらためて熱く御礼申し上げます。

今後は、セミナーを通じて得た知見を十分に生かしながら、市民への情報発信など技術士の社会貢献に取り組んでいく所存です。

表－１　防災セミナー開催履歴一覧表

	開 催 日	テ　ー　マ	講　演　者	備　　考
第 1 回	2001 年 11 月 26 日	実施検証に基づく戦略的リスクマネジメントの実践方法	㈱インターリスク総研　上席コンサルタント 府川　　均　氏	
第 2 回	2002 年 8 月 1 日	2000 年有珠山噴火災害　復興計画について	北海道総合企画部　有珠山活動災害復興対策室参事　樺澤　　孝　氏	
		危機迫る首都圏の防災に向けて、そして三宅島では！	日本技術士会本部災害対応調査委員会　副会長兼建設部会長　山口　　豊　氏	
第 3 回	2002 年 12 月 5 日	鉄道（JR 北海道）の豪雪対策	北海道旅客鉄道㈱鉄道事業部　構造エンジニアリング　小西　康人　氏	
		航空関係の豪雪対策	応用地質㈱札幌支店　技術顧問　増田　博昭　氏	
第 4 回	2003 年 8 月 26 日	社会貢献する陸上自衛隊	陸上自衛隊北部方面総監部　施設部施設課 田口　孝二　氏、後藤　賢昭　氏	
第 5 回	2003 年 12 月 8 日	十勝沖地震災害調査･検証〈地盤関係〉	北海道開発土木研究所　土質研究室長 西本　　聡　氏	
		十勝沖地震災害調査・検証〈構造物関係〉	北海道開発土木研究所　構造研究室長 池田　憲二　氏	
第 6 回	2004 年 3 月 4 日	地球シミュレーターの概要と研究成果	地球シミュレーター　センター長特別補佐 平野　　哲　氏	技術交流研究会合同セミナー「防災とまち（ひと）づくり」
		危機管理と組織運営	ニセコ町長　逢坂　誠二　氏	
第 7 回	2004 年 11 月 29 日	医療現場の現状と課題 ── 北海道の被害を中心として ──	札幌医科大学付属病院　高度救命救急センター教授　浅井　康文　氏	
第 8 回	2005 年 11 月 25 日	札幌駅前通地下歩行空間の整備概要	札幌市市民まちづくり局都心まちづくり推進室都心交通担当課長　城戸　　寛　氏	
		豊平川氾濫シミュレーションについて	北海道大学　名誉教授　藤田　睦博　氏	
		都市水害時の地下浸水	京都大学防災研究所流域災害研究センター　教授 戸田　圭一　氏	
		都市地下空間における火災・爆発被害について	東京理科大学総合研究所　COE 技術者 西田　幸夫　氏	
		地下空間と人間心理について	首都大学東京都市教養学部心理学教室　教授 市原　　茂　氏	
第 9 回	2006 年 3 月 8 日	札幌の地下構造と地震防災について	北海道大学大学院都市防災学研究室　教授 鏡味　洋史　氏	
第 10 回	2006 年 8 月 29 日	国土学の視点から災害を考える ── 北海道の課題と展望 ──	財団法人国土技術研究センター　理事長 大石　久和　氏	

■記念講演の概要

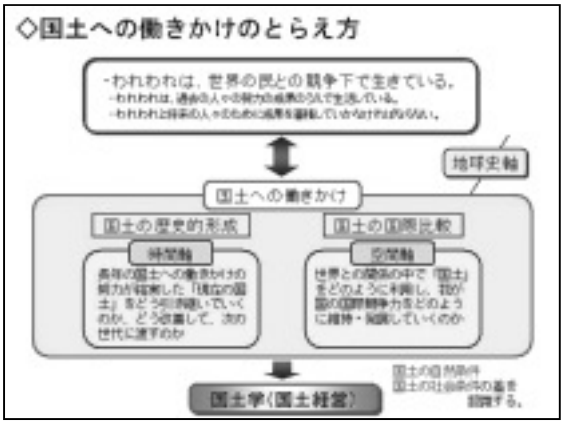
大石氏からは、「国土学の視点から災害を考える――北海道の課題と展望――」と題して、講演をいただきました。氏は、この3月に出版した「国土学事始め」の中で、「国土への働きかけ」という表現で、先人の思いを受け継ぎ、後世に誹りを受けないよう、現代における社会資本整備を怠ってはいけないと警笛を鳴らしています。

私たちは、地震、豪雨、豪雪、津波、土砂崩れなど、厳しい自然条件と脆弱な国土のうえで暮らしており、常に災害や危険と隣り合わせにある一方で、その国土に田畑を拓き、道路、町を造るといった様々な「国土への働きかけ」を行うことによって、生活に不可欠な様々な恵みを受けとっています。

先人達が様々な「国土への働きかけ」を継続し努力したおかげで、現在の私たちは豊かな生活を享受しており、現在の私たちは、安全に暮らせるよう国土を守り、更なる恵みをえるために「国土への働きかけ」を継続していく必要があります。

さらに子供たちのためにも不断の「国土への働きかけ」の努力を行い、より安全で快適な生活ができ、より良い国土にして遺していかねばなりません。

このような「国土学」（図－１）の視点から、国際比較を交えながら国土の自然条件を概括し、近年の自然災害の実態を具体例により紹介されました。中でも、都市型災害については、最近のニューヨークや首都圏の大停電事故、札幌市の水道管破裂事故（写真－１）など人為的な災害により都市基盤の脆弱性が表面化している点を指摘されています。



図－１　「国土学」のダイヤグラム

写真－１　札幌市の水道管破裂事故

その上で、過去の災害、特に阪神淡路大震災を教訓にした防災・減災対策の必要性を示され、地震・津波、火山噴火、洪水などにより幾度と無く被害を受けている北海道においては、特に「国土学」の観点からの社会資本基盤整備の必要性を強調されました。

■第2回全国防災連絡会議に参加して

第33回技術士全国大会第4分科会（平成18年9月6日）に参加してきました。「首都直下地震を迎え撃つ～技術士の役割～」と題し、首都大学東京の中林教授による内閣府及び東京都の被害構想策定についての報告とともに、防災特別委員会とのパネルディスカッションでは具体的な防災・減災対策が議論され、大会宣言が採択されました。

また、その前日に、第2回全国防災連絡会議が同会場にて開催され、北海道支部からは高宮会長と私が参加してまいりました。

防災特別委員会、北海道支部、東北支部、神奈川県技術士会、近畿支部、中・四国支部、九州支部及び減災技術支援WGから25名の参加があり、各支部から、これまでの活動報告や今後の活動方針などが報告されました。

また、日本技術士会が首都直下地震に向けて支援できることについて具体的な検討を進めるにあたり、防災特別委員会からの協力依頼もあり、今後、各支部の連携強化を図るとともに、全国防災連絡会議を充実させていくことを確認しました。

（文責：防災研究会幹事長　城戸　　寛）